



19



19

秋五

(中)

民心動向調査並宣傳要領件  
昭和二十年三月三十日

國士隊本部長宛

球第七〇七部隊長

敵ハ機動部隊、三月二十日以來我が沖繩

列島ニ其、鮮先向キ来リ、此ハ我が軍

ノ豫期セル處ニシテ作戦上何等憂慮ス。

ハキ事態ニ非ズ寧ロ我が企圖スル作

軍

捕、出血以心傷ヲ期シアリ

一部縣民ノ間ニハ敵ノ空襲ヲ避テ

感

ニ或ハ逃匿傳言ル

集撃ニ畏怖ニ周章狼狽

原我隊等指導乘セラルニ遠サントセス

祈ヨ知ラザル者アレヤニ感得セラルトモ

ヤニコモ非ズ 斯クテハ敵ノ企圖セル銃後

攪乱ノ謀略ニ陥リ 作戦ニモ影響

ヲ及ス結果ヲ招來スルニ付テハ一般民衆ノ

(日本一)

陸軍

輿論指導ニ万全ヲ期セラル縣民ノ激敵

戦意ノ昂揚ニ努メラレ度 概不別記

本報領事官宣傳業ニ其ニキ一般ニ宣傳ス

ルト共ニ左記事項調査ノ上至急報告

スベシ

左記事項

三月二十三日(敵機動部隊進出)後ノ民心ノ動向特ニ

別記第三

戦列ヲ乱サズ

敵ノ上陸ニ備ヘマセウ

三月二十三日以來敵ハ皇土沖繩ニ其ノ<sup>スガ</sup>蘇澳<sup>ク</sup>ヲ

現シテ來マシマ。我々<sup>スガ</sup>蘇澳<sup>ク</sup>ヲ今日アル

事ヲ覺悟シ之ヲ迎ヘ撃ツルノ準備ハ既

ニ出来上ラテキル筈デアリマス

敵ガ沖繩本島ニ上陸スルハ<sup>スガ</sup>蘇澳<sup>ク</sup>至デアリ

敵ノ逆旨傳ニ對スル反響

不戦意ニ懸度

ニ経済動向

得民特ニ疎用者ノ衣食住ニ需給状況

其他ノ特異事象

報告方法

打或文書ニ依ルコトスルモ状況ニ依リ<sup>スガ</sup>蘇澳<sup>ク</sup>軍用電誌ヲ以テ文書体ニ<sup>スガ</sup>蘇澳<sup>ク</sup>報告

決

マスガ然レシハ我軍ノ恩ヲ盡テ敵ノ兵

カシ此ノ冲程ニ結集ニ滅スル新謂

軍ノ作戦ヲアワテ敵ノ來襲ハ作戦上

決シテ憂慮スルニトテハアリマセン

現ニ御ニ防衛ノ

大空軍參謀ノ如クニ言カラニ白止ニ艦船ノ專使被

軍將兵四十隻飛舟ヲ專使被一五四キノ

大戦果ク榮ケ得ク候ニ對シテ

敵ニ干渉スルハ我軍ノ宣傳

ビラヲ登シニ微イテ我軍ノ不敵ナ

敵意ヲ攪乱スルトニ起テトナワテオマス

カ斯ノ十子供竊シノ橋ヲ宣傳ニ戦フ

民ノ日本精神ノ微動トモシナイノ

ミカ此ノ宣傳ニ依ッテ我々ノ敵ノ兵

力不足ト腹病サヲメサノ見ニト

テ出来マス

テキ 米飽苦ハ之テ精一程ノカヲ出シテ冲

緩マデヤワテホテ居リマス

コチラガ苦シイ時ハ敵モ更ニ苦シイノデス

優マデヤコテ来テ居ルハス

コナラガ苦シイ時ハ敵ニ更ニ苦シイデス

今一息デス苦シサヨ耐入テハ遺棄

マセヨ

我ハ軍ヲ絶對ニ信賴スルハ協力シテ

敵上陸ノ日ニ人十殺シテ自ラ敵

ヲ塵殺シ策ニテ軍記念日ヲ此ノ

沖繩デ樹立ルベク左ノ事ニ注意シテ

戦列ヲ乱サズ頑張りマセヨ

一敵ノ撒イタ逆宣傳ビラハ集メテ軍ヤ

警察ニ届出<sup>果</sup>マセヨ(届出ラレナイトキハ燧キ

喜ホテハニト)

二敵ハ飛行機カラ萬年筆型時計刑士

(燧彈)



爆彈

毒物や細菌ヲ混入シ喰ベ物ヤ

炸藥子類

ヲ投下ニテマシメテ路ニヤ

畑ニ落チテキル毒草等、時計、飲食

物ヲ見タラハ觸ラズニ軍ヤ駐在所ニ

届ケマセウ

三飛行機ノ爆音ヲ聞イタラ身ヲ隠シ

絶對ニ動カナイ様ニシマセウ(敵ノ地上ヲ

動クヲ見付ルト一止テモ逃レマセウ)

中敵機ノ來襲時ハ書ヲモテ後ヲ見テ

焚カナイヲシマセウ

軍ヲ信頼シ大本營ヲ襲キ衣以外ハ徒ニ

戦局ヲ臆別ニ流シテバサナイ様ニ

オシニ戒メ合ヒマセウ

敵ノ攻撃ニ依リ怖氣ツキ自害ヲニナル

以上ニテハ臆病者ナシ  
ハ不中心者テス、犬死セヌヨウ注意シ

テ勝ツマデ元氣デ道張リマセウ

藤原公家御書



